神戸市感染症発生動向調査週報

平成29年7月11日 作成

小児科

神戸市感染症情報センター

48 報告定点数 ヶ所

第 27週 平成29年7月3日 平成29年7月9日

インフルエンザ			設置足	と点数		48	ヶ所																							
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~
インフルエンザ	1									1			1																	

31 ヶ所 報告定点数 設置定占数 31 ヶ所

<u> グンジングイキー </u>			ᇇᇋᄼ	ᇈᄶᅑ		JI	<i>7 [7]</i>																	
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	1		1					1	1	4	1		2								1			
咽頭結膜熱	6	3	1		1	1	3	11	1	27		4	4	5	3	3	2		1	2	1	1	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	9			16	2	2	5	17	59			2	5	2	10	5	5	7	7	4	11	1	
感染性胃腸炎	12	7	3	5	45	8	28	63	21	192	2	11	34	18	19	25	10	10	11	10	10	11	3	18
水痘		1		1	9		1	4	1	17	1		3	1	2	3		4	2	1				
手足口病	33	15	30	4	31	32	50	74	70	339	6	30	117	81	29	35	14	6	6	3	3	5		4
伝染性紅斑	1									1									1					
突発性発疹	5				1	1	1	2	2	12		4	7	1										
百日咳								1		1						1								
ヘルパンギーナ	9	2		2	5	9	7	11	20	65		7	20	17	4	7	5	1	1	1		1		1
流行性耳下腺炎		2	1		2		5	8	4	22			1		2	5	4	4	2		3	1		

今週、梅毒の報告が2例ありまし た。今年に入って、38例目の報告 で、昨年の同時期より増加してい ます。また、38例中20例が20代で あり、現時点で過去数年の20代の 年間報告数を超えています (H28:16例、H27:10例)。 梅毒は、性感染症です。妊娠中 の女性が感染すると、胎盤を通し て胎児に感染し、死産、新生児死 一、奇形など(先天梅毒)を引き |起こすことがあります。日本産科 婦人科学会の調査では、H23~H27 の5年間に21人の赤ちゃんが母子 感染により先天梅毒と診断され、 うち5人が死亡、4人に後遺症が |あったと報告されています。 妊婦は、妊娠初期に梅毒の血清 反応検査を受け、結果が陰性で あっても、特に出産までは、性交 |渉時に新たに感染しないよう、注

意しましょう。

報告定点数 10 ヶ所

ケ所 眼科 設置定点数 10

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎		1				1			1	3													1		1		1		

【定点機関から報告されたその他の感染症情報】

東灘区〇ノロウイルス感染症1例:2歳 女

〇マイコプラズマ肺炎1例:4歳 男

灘 区〇アデノウイルス感染症および

溶血性レンサ球菌感染症(混合感染) 1例:10歳 女

中央区〇アデノウイルス感染症1例:2歳 男

北 区〇アデノウイルス感染症4例:1~10歳 男女

垂水区〇細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:年齢性別不明

西 区〇細菌性腸炎(病原性大腸菌O125)1例:53歳 男

【基幹定点(市内 3ヶ所)からの報告】

無菌性髄膜炎1例:5歳 女

【市内の感染症の状況】

今週の手足口病の定点あたり患者数は10.9人です。 市内では、警報レベル期間(第26週~)に入ってから、 2種類の病原体検出報告がありました。

コクサッキーウイルスA6型が多く報告されています。 【行政検査情報】

手足口病 警報レベル期間(第26週~) の病原体別報告数(累積)

コクサッキーウイルスA6型	エンテロウイルス71型
8	1

〇麻しん疑い:10歳 女 検査結果:陰性

症状:発熱、鼻水・咳・痰あり。解熱後、再度発熱。顔、体幹に発疹、結膜充血あり。 予防接種歴2回。海外渡航歴なし。発熱の9日前に大型レジャー施設を利用。

[お知らせ] バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

_ 神戸市 発生動向 〔検索〕

「ILI情報センター」ホームページを開設しています。詳細はこちらをクリック

神戸市感染症発生動向調査週報

神戸市感染症情報センター 2017年7月11日作成

全数把握对象感染症発生状況 (二類感染症 結核)

•	TH 127 /			
	結核	串者	対はの	人です。

<u>全数把握対象</u>	京感染症発生	<u> </u>	<u>(三類感染</u> 』	<u> </u>	性大腸菌感染症	臣)			
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	菌種	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	50代	_	2017年7月5日	2017年7月7日	O 168 (VT2)	便培養法	なし	不明	無症状保菌者

全数把握対象	象感染症発生	状況	(四類感染)	症 レジオネラ	ラ症)				
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	70代	-	2017年7月10日	2017年7月10日	肺炎型	尿中の病原体抗原の検出 (酵素抗体法)	発熱、呼吸困難 意識障害、肺炎 多臓器不全	不明	-
男	60代	2017年7月1日	2017年7月1日	2017年7月10日	肺炎型	尿中の病原体抗原の検出 (酵素抗体法)	発熱、肺炎 呼吸困難	不明	-
男	40代	2017年7月11日	2017年7月11日	2017年7月11日	肺炎型	尿中の病原体抗原の検出 (イムノクロマト法)	発熱、咳嗽 肺炎、肝障害	不明	-

_全数把握对象	<u>象感染症発生</u>	<u> </u>	(五類感染物	<u> </u>	&)				
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	5~9歳	2017年7月5日	2017年7月5日	2017年7月6日	病原体不明	臨床決定	発熱、嘔吐 痙攣、意識障害	不明	1
男	0~4歳	2017年7月8日	2017年7月9日	2017年7月10日	病原体不明	臨床決定	発熱、痙攣 意識障害	不明	1

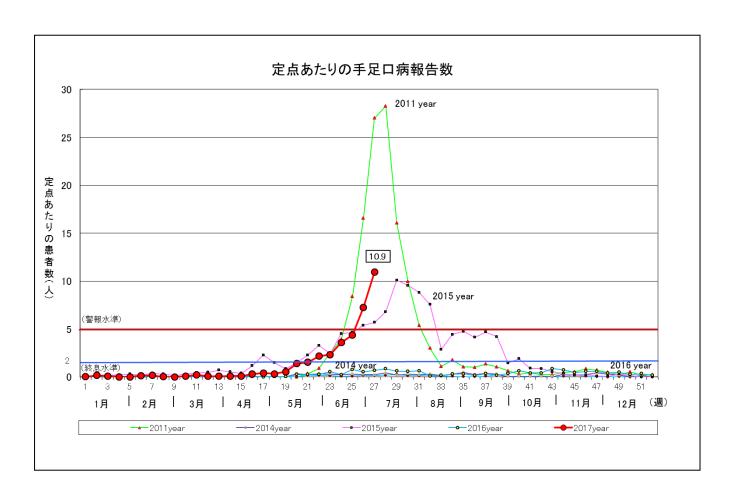
<u>全数把握对家</u>	尽感染症発生	<u> </u>	<u>(五類感染</u> 類	正 侵襲性肺	<u>炎球菌感染症</u>)				
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検	食査法)	症状	推定感染原因	備考
女	70代	2017年7月6日	2017年7月6日	2017年7月10日	-	分離・同定によっ の検出(髄液・	血液)	頭痛、発熱 意識障害、菌血症 項部硬直、髄膜炎	不明	ワクチン接種歴なし

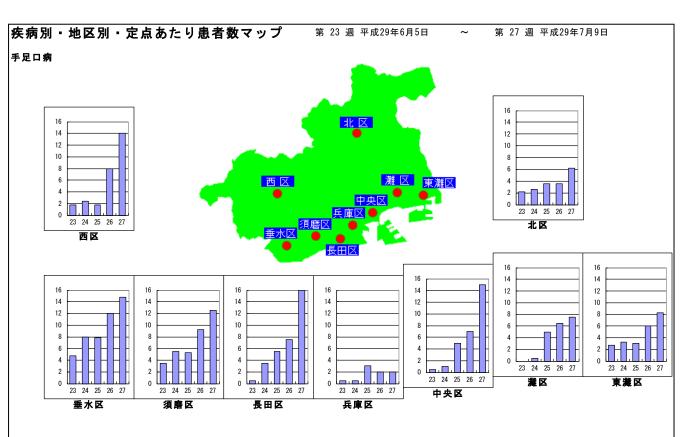
_	全数把握対象	京感染症発生	状況	(五類感染》	主 梅毒)					
	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
	男	20代	2017年5月30日 頃	2017年6月30日	2017年7月1日	早期顕症梅毒I期	RPRカードテスト TPHA法	初期硬結	異性間性的接触	-
	男	20代	2017年7月1日	2017年7月3日	2017年7月3日	早期顕症梅毒I期	凝集法 梅毒TP抗体法	硬性下疳	異性間性的接触	-

全数把握対	象感染症発生	状況	(五類感染約	定 麻しん)(PCR検査陰f	生のため発生届取下	げ)		
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	10代	2017年7月3日	2017年7月7日	2017年7月7日	臨床診断例	臨床診断	発熱、咳 鼻汁、発疹 結膜充血	不明	PCR陰性

神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

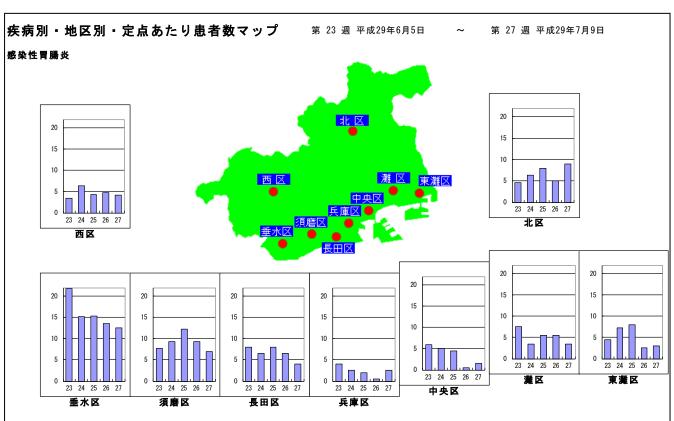
病原体	検体	区	状況
コクサッキーウイルスA6型	咽頭ぬぐい液	東灘	2歳9ヶ月男児(6/26採取、発熱なし、手足口病)
アデノウイルス1型	咽頭ぬぐい液	東灘	1歳7ヶ月女児(6/19採取、41.0℃、咽頭結膜熱)
水痘帯状疱疹ウイルス	水疱内容物	垂水	7歳男児(6/29採取、38.3℃、水痘または手足口病の疑い)
肺炎球菌 血清型15A/15F	分離菌株	中央	1歳女児(発熱、菌血症) 接種歴のある13価ワクチンには含まれない血清型である





※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は 区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把 握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。





※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は 区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把 握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。